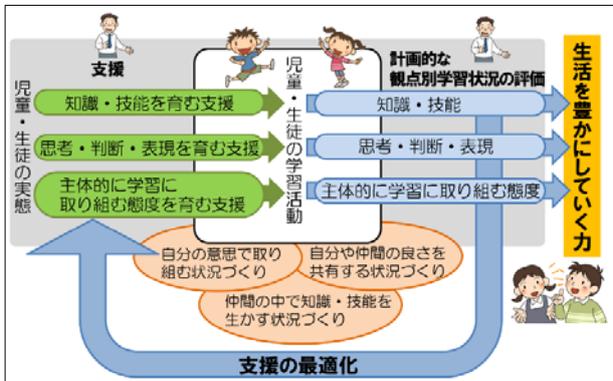


平成29年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 共同研究推進 <input type="checkbox"/> 若手教員研究支援 <input type="checkbox"/> 個人研究支援 <input type="checkbox"/> 研究推進重点設備 <input type="checkbox"/> 研究推進設備修繕
プロジェクトの名称	知的障害の重い児童・生徒のための主体的・対話的で深い学びの具現化プロジェクト
報告者氏名・所属・職名	高石 純・附属特別支援学校中学部・教諭
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	清水 拓海・附属特別支援学校高等部・教諭 加藤 順也・附属特別支援学校高等部・教諭 白府 士孝・附属特別支援学校高等部・教諭 山田 俊寿・附属特別支援学校中学部・教諭 中村耕太郎・附属特別支援学校小学部・教諭 江崎 拓郎・附属特別支援学校小学部・教諭 北村 博幸・函館校・教授 細谷 一博・函館校・准教授 小淵 隆司・釧路校・准教授
研究内容及び成果の概要	
<p>本プロジェクトは、「自分の意思で取り組む状況」、「仲間の中で知識・技能を生かす状況」、「自分や仲間の良さを共有する状況」の3つのできる状況を授業の中に設定し、現在や将来の家庭生活・地域生活・職業生活を豊かにしていく力の育成を目指した。そして、児童・生徒の変容を多面的に評価するために、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から捉えて(図1)観点別学習評価モデルの開発、及び3観点から整理した支援スケールの開発を行った。そして、本プロジェクトの成果については、第55回日本特殊教育学会において実践発表を行い、全国附属学校の教員、国立特別支援教育総合研究所や国立教育政策研究所の職員など、多くの方々との質疑・応答を交えながら本プロジェクトの成果を発表することができた。また、12月の本校の公開研究協議会では、全国各地から200名の参加があり、本プロジェクトの成果を発信することができた。</p> <p>こうした状況から、今後はさらに全国の教員のニーズに応えられるように、特別支援教育における「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業開発に今後も尽力していきたい。また、本プロジェクトを通して、附属特別支援学校として第3期中期計画2(1)15の特別支援教育分野における「研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置」についての具現化を図ることができたと考える。</p>	
	
図1 観点別学習評価と支援システムの概要	
成果の公表の状況	
<p>【著書】 北海道教育大学附属特別支援学校 平成29年度研究紀要第30号, 2018.</p> <p>【学術論文】 白府士孝, 細谷一博, 北村博幸, 太田千佳子, 中村耕太郎, 高石純, 清水拓海, 矢口明, 生活を豊かにしていく力を育む授業づくり(1)～知的障がい教育における主体的・対話的で深い学びの具現化をめざして～, 日本特殊教育学会第55回大会論文集, 2017.</p>	
教育現場で活用可能な分野・教材等	
特別支援教育分野における主体的・対話的で深い学びに関する研修など	
配布又はダウンロード可能な資料	北海道教育大学附属特別支援学校 平成29年度研究紀要第30号, 2018.

問合わせ先

代表者：高石 純

電 話：0138-46-2515

F A X：0138-47-8729

mail：hak-tokushi@h.hokkyodai.ac.jp